

西成警察署

大増築の完成したところで西成ケーサツ署（現警署・竹森鶴平）のことを書いておこう。ケーサツという漢字はややくしくて、トーシヤ版の原紙切りがたいへんだから力ずで書く。西成ケーサツのできたのは一九一九年（大正8）四月、それまでは住吉ケーサツがこのへんを管轄していた。ただし、できたときから一九四三年（昭和18）一月までは、西成ケーサツとは言わなくて、今宮ケーサツという名前だった。

ちよつとごたついた地図をつけるけれど、ごたついたところは中廣編集長がすつきりさせてくれると思う。

これは一九三九年（昭和14）の釜ヶ崎の大まかな地図だ。じい、と見ていたら現在の釜

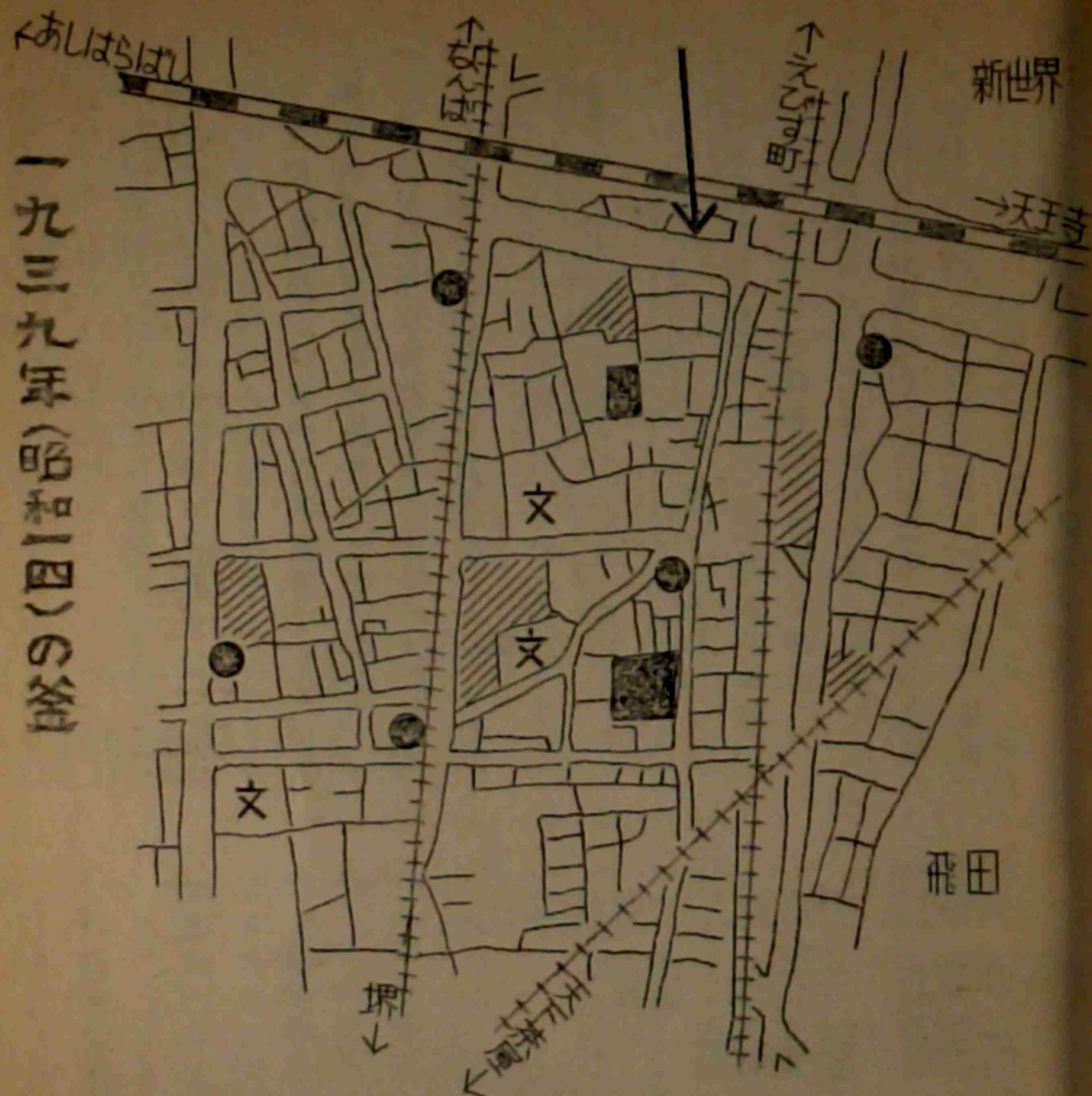
とくらべてわかってくるだろう。さてその説明。

右の上の方のクロマルは、この雑誌の一号に書いた「消えた派出所」で、吾も東田町派出所といっていた。

その左の小さな四角いクロは、当時の大阪市立労働紹介所。その下のクロマルは釜ヶ崎派出所、当時はあいりんなんてヤボはいわなかったようだ。もひとつ下の大きな四角いクロが今宮ケーサツ署。それから左の方に三つあるクロマルも派出所だけど、もう名前は略してしまふ。いまもある萩之茶屋派出所は見えてわかるはず。

ななめの線を引いたところは田んぼか畑だったらしい。それと、えびす町と書いた左側から下向きの矢印で示したところは藝地だったという。いま喫茶と立ちのみのマルマツが両角にある通りの橋手だろう。

（次のページの地図を見て下さい）



一九三九年（昭和14）の釜

一九四三年から西成ケーサ

ツになったが四五三年三月のアメリカの空襲で建物は焼け、しばらく萩之茶屋小学校に仮り住いした（留置人のことはいまわからない）。

敗戦後の一九四八年二月、焼けあとに木造建物ができ、さらに一九五八年（昭和33）三月に鉄筋三階建てとなった。その次がこんどの大増築だ。こんどの工事は知つての通り小坂井組のシートが張ってあったけれど、地元の者はやとわれなかつたと思う。工事にやとわれない代りにフタバコへほうりこんでやるというのはではありません。（た）